

あしはらの詩あしたの詩



2020年版

一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集

詩人の詩



一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集
2020年版

序

会長 石原信一

日本作詩家協会は今年創立55周年にあたります。

そして詩謡集「きょうの詩あしたの詩」を創刊して51年目を迎えました。

私が会長を仰せつかり、身のすくむ思いで過ごして半年が過ぎ、初代会長サトウハチロー先生が詩謡集を発刊なされた第1号の巻頭文を読み返してみました。

「誰も彼もが……一篇ずつの詩を持ちよって出来上がったこの詩集。ボクは、この詩集が出たことに、ほんとうの喜びを感じています。よい仕事というものは、つづけて行きたいものです。ボクとしては、これ以上のものを次に、そうしてその次には、更に立派なものを出して行きたいのです」

あれから51年、詩謡集は作詩家協会会員のみなさんと一緒に、歴史を刻んでまいりました。

すごいことだと思っております。作詩家の誇りがここにあります。

時代とともに歌の作り方も、歌の届け方も変わりました。しかしその元となる詩が変わることはありません。私たちは詩を書き続けます。

その折、今回の詩謡集にもご健筆ぶりを発揮されている、たなかゆきを先生が出品後93歳でお亡くなりになりました。たなか先生は作詩家協会の創立メンバーであり、長きにわたり後進の指導にあたってこられました。

ここに謹んでご冥福をお祈りする次第です。

昨今のコロナ禍にあっても、たなか先生はじめ会員のみなさんが勇気を奮い立たせ、作品をお寄せいただきましたことに、あらためて感謝申し上げます。

序	会長 石原信一	一
薄紅桜	アーヴァン沢井	一四
追憶のブロードウエー	藍 慶子	一五
港（おんな）	相原利夫	一六
トントンやんか 人生は	蒼 ヨシヒロ	一七
つんつん津軽の夫婦船	青木圭介	一八
兄弟船から親子船	青木勇一	一九
祝婚・おめでとう	赤坂佳津子	二〇
すずめのお客さま	明石真帆	二一
夫婦桔梗 — 明智光秀の妻照子—	阿川 礼	二二
望郷ちぎり絵	秋篠さと	二三
冬 菫	麻 こよみ	二四
雪の舟	浅倉美智子	二五
俺	飛鳥美勇樹	二六
平成榎山節	アソムラタカ才	二七
— 老花・介護・徘徊・臨終・脱皮・解放・自在・永劫 —		
チャグチャグ馬コ祭り唄	安倍 暁	二八
俺の一番星	雨宮英子	二九
これが幸せ	荒木都与雪	三〇
里山ロマン	生駒 かつゆき	三一
富士山	石田 鵬	三二
おとなの春に	石原信一	三三
夢街この街 恋の街（デュエット曲）	石渡 誠	三四
酒・夢明かり	出原敏光	三五
私は影法師	市川武志	三六
京友禅 愛の花	一城えり	三七
お前と俺	一森さとし	三八
亮ちゃん	いとう 彩	三九

熱い涙よ 飛んで行け	伊藤 一生	四〇
郷は過疎村雪の中	伊藤 彰二	四一
華：太鼓	伊藤 久子	四二
バカヤロー居酒屋	井上 裕允	四三
祇園恋唄	井上 ゆうき	四四
忍者くの一	上田 公美彦	四五
瀬田の唐橋	氏原 一郎	四六
マリーによせて	鶴水 いさお	四七
帰らぬ日々よ	内堀 ミエ	四八
とっつけ ひっつけ	羽蝶 天まいこ	四九
女のねぶた	海野 清二郎	五〇
母の思い	永用 哲也	五一
ZUSIは女性に受ける町	翁 川美郷	五二
ああ：備中高松城	大石 敬司	五三
命は宝	大竹 幸介	五四
白い慕情	大山 詩央	五五
望郷ごころ	岡田 佳栄子	五六
きょうがあるから	岡山 一穂	五七
悲しみの温度	小倉 紅実	五八
津軽の女よ	小山内 圭	五九
く・れ・な・い	織田 まり	六〇
一本の道	小野塚 清一	六一
海の民	小野寺 正悦	六二
あやめ	柿沼 雅美	六三
アリとキリギリス	垣見 幸伸	六四
母への子守唄	格地 秀明	六五
夜行バス	KAKUYO	六六
二人の漁師船	笠井 光博	六七
お千代保音頭	春日井 博	六八
ロンリーナイト	丸	六九

携帯電話変えました	片桐和子	七〇
ああ奥能登の宿	勝田守	七一
夜に舞い来る 白い蝶	加藤けい子	七二
ふるさと恋し	金澤猛	七三
夕霧太夫	紙谷良子	七四
Raのマーチ	川英雄	七五
朝 鏡	川井春幸	七六
赤ちようちん	河井雄太郎	七七
湯の町三味線	川西ほせい	七八
もう一人の わたし	菊村てる	七九
夢一字	岸田のぶや	八〇
大糸線 女 一人旅	北原昌弘	八一
能登・波の花	北村けいこ	八二
あつたのかい	北村直之	八三
恋慕道	木村賢司	八四
椿	京光恵	八五
女の旅路	桐野藍子	八六
い・つ・も	霧野ゆう	八七
ばあちゃん達は 心底祈る	草波流沙	八八
一泊二日	久仁京介	八九
憂 顔嵜	國枝星志	九〇
想い出の巴里	國武浩之	九一
一人雪旅	蔵之助	九二
俺の番だよ	栗沢涼	九三
女の哀愁路	黒川良人	九四
たいした男じゃないのにさ	黒澤戀	九五
他愛もない朝に	K e i	九六
やすらぎ	k / z e n n a	九七
花冷え京都	高坂のぼる	九八
冬の季節風	こじまかずみ	九九

情 炎	小嶋 高志	一〇〇
南の島だよ笑う月	五島 こう	一〇一
狸穴ブルース	こはま かずえ	一〇二
情けは人の為ならず	小宮 正人	一〇三
柵田のふる里	小森 敏一	一〇四
とおせんぼ	小山 修一	一〇五
なかつたことにしましょうか	近藤 英子	一〇六
日だまりのメロデー	紺野 あずさ	一〇七
漁師の女房	在郷 太郎	一〇八
麦ふみの里	斉藤 清人	一〇九
マキノの映画	佐久間 信	一一〇
傍惚れ酒場	佐々木 ひさこ	一一一
男女ノ川	佐渡 ミユキ	一一二
令和侍	佐東 たどる	一一三
おれは俺流	佐野 源左衛門一文	一一四
夜空の下の 交差点	沢 富美子	一一五
ふたりで奥入瀬	沢 洋介	一一六
岩内の夕辺	山 藤 せい子	一一七
波止場まち	下 北 龍一	一一八
雨の港の浮き栈橋	下 野 登美子	一一九
眉山の街で	白 川 千恵	一二〇
悲しみを越えて	城 岡 れい	一二一
ふるさと港	城 山 正志	一二二
居酒屋のれん	吹 田 晴也	一二三
ありがとう〜こちらこそ	杉 江 香代子	一二四
男 心	助 田 ひさお	一二五
まごころ	鈴 木 紀代	一二六
里の思い出	鈴 木 さとし	一二七
花のゆめ詩	鈴 木 はるか	一二八
愛するわが子へ	鈴 木 康正	一二九

黄昏時のピアノ	洲本正幹	一三〇
ためいきついで	せんけいこ	一三一
よさこいソーラン	田浦泰	一三二
惚れられた	高丘よしと	一三三
女心は二〇才前	高城のぼる	一三四
北ロマン	高須はじめ	一三五
返り花	高塚和美	一三六
「アタシ」のカケラ	高野博美	一三七
海鳴りの町	高橋耕作	一三八
うさぎのオリンピック	高橋麗秋	一三九
凍て星	高畠じゅん子	一四〇
人生の河	多岐川大介	一四一
思い出にしないで	たきのえいじ	一四二
幸福駅に出かけましょう	たくわん	一四三
ひざまくら	竹内清訓	一四四
ビニール傘	田島隆夫	一四五
鳴砂	タヅ香	一四六
北のあいっ	多手石松観	一四七
静の舞	田中いぶき	一四八
おんなの影法師	たなかゆきを	一四九
京の恋唄	谷幸男	一五〇
俺が男であるならば	谷口文彦	一五一
夕月川	たにはら伸	一五二
はばたけエンゼル	多野亮	一五三
鉛の指輪	玉利要	一五四
グッドラック	昨日にあばよ	一五五
都会の案山子	千草三紀	一五六
忘れられない	ぬくもりが	一五七
草原の詩	津田雅道	一五八
心騙り	寺島幸生	一五九

東京オリンピックク	2020	土肥	薫	一六〇
春恋慕	桃仙	橋佳	一六一
寒 桜 母へ	戸川	智砂子	一六二
のらネコのマーチ	時女	礼子	一六三
宇宙はデジャブ	とだ	じょう	一六四
倅せはぐれ恋はぐれ	奈緒	緒	一六五
まぶ達の歌	永井	ひろし	一六六
鳩羽色に暮れて	永田	聖子	一六七
富士山	中原	捷	一六八
↳遠野民話「おしらさま」より↳				
おしらさま	仲村	つばき	一六九
夜更けの街	名取	沙紀	一七〇
未来への扉	浪花乃	月	一七一
小鳥とわたし	波	たかし	一七二
廃線列車	鳴海	徳一	一七三
死ぬ迄親の脛を齧り尽くした実の兄	難波	伸安	一七四
あれから私	南陽	町子	一七五
一人輪島で	西井戸	学	一七六
大人になったなら	西脇	照芳	一七七
それからの迷い猫	二瓶	みち子	一七八
風に向かう二人の心	丹羽	敏彦	一七九
ル リ	NO	MOS	一八〇
孫の稲希ちゃん	野沢	冬子	一八一
ふる里 天竜川	萩台	峰永倅	一八二
俺にきめろよ	羽澤	文子	一八三
女の歳月	橋本	真寿美	一八四
恋のエゾカンゾウ	華	みづき	一八五
かすみ草	花季	あや	一八六
いまでも好きだ	浜源	太	一八七
踏みしめて歩くなよ	濱田	龍郎	一八八

恋愛未満のう・ふ・ふ	林	茂代	一八九
グラスの中の愛鍵	林	伸	一九〇
共に生きる	原	慶	一九一
一本の茶柱	原	文彦	一九二
水 心	遙	北斗	一九三
夢見坂	ヒロ・ユイ		一九四
霊峰石鏡山	肥田晃輔		一九五
津軽の渡り鳥	平井歩果		一九六
夜空のトランプペット	平山かつもと		一九七
裏町提灯	広瀬	ゆたか	一九八
人生紙一重	風	雅也	一九九
心の待ち針	藤	外美子	二〇〇
言葉の算盤	不二	美風	二〇一
寿夫婦舟	藤本雅則		二〇二
雨に咲いた恋	藤安	五月男	二〇三
雪のなみだ	文月	まさる	二〇四
大阪エレジー	古澤	勝	二〇五
一味ちがうよ外人酒場	平誠	三朗	二〇六
大乘院	星野	哲寛	二〇七
森の愛きよう者(ムササビ)	ほたる	翔	二〇八
清らかな世に	堀	まさし	二〇九
大間のマグロ師	梵	天丸	二一〇
江戸城ソング	舞	氣流	二一一
令和の舞 <small>（疫病終息を祈る）</small>	榎	映二	二一二
五十鈴川哀歌	万城	たかし	二一三
桃ノハナ	松井	五郎	二一四
天地人	松井	眞佐子	二一五
幸せのコップ酒	松尾	博之	二一六
一人酒	松岡	徳峰	二一七
ふりむかないで	松原	かおり	二一八

令和二年の挽歌	松原高久	二一九
最果て岬	松本摂子	二二〇
恋はつぼみのままで	真鍋加津美	二二一
ひとりの止まり木	丸山八留男	二二二
越後・子不知・親不知	まんだあつこ	二二三
あと何度	三浦節子	二二四
ひなげしの小径	美貴裕子	二二五
郷里ごよみ	三木政和	二二六
荒祭り焼津港	みさきまさる	二二七
花嫁の兄	三里こうじ	二二八
ひまわりの花のように	水紀美春	二二九
母の背中に	美手けんじ	二三〇
どさんこ魂	みねゆきと	二三一
聴こえますか	宮内たけし	二三二
迷い恋	美山愛	二三三
四都物語(札幌広福、夢の街)	三好清隆	二三四
愛のエネルギー	武笠和夫	二三五
ジャンケンポンだよ	人生はめぐみ	二三六
たんぼ(童謡)	茂木けんじ	二三七
きれぎれの光	森光	二三八
角打ち酒場	森本アキラ	二三九
雨な一日	矢坂秀司	二四〇
ふるさとに 謳う	八嶋保孝	二四一
隠れ宿	八代圭一	二四二
銀色の靴	山甲斐晶子	二四三
人生夢桜	八巻功	二四四
鳴き砂ブルース	山田輝一	二四五
流し雛	山田早苗	二四六
マドロス気質	山田孝政	二四七
暖ったかいうた	山田那津子	二四八

大工一代……………	山本広茂……………	二四九
しあわせ気分 上々……………	結城彩……………	二五〇
ふゆの蟋蟀……………	結城れい子……………	二五一
キリシタン細川ガラシヤ 戦乱の白百合……………	悠月ねね……………	二五二
日影の女……………	夕鶴……………	二五三
ばってん長崎(故郷よ)……………	ゆきちかげ……………	二五四
逃げるシヤボン……………	夢ユメ子……………	二五五
海鳴りの声……………	由良ゆりこ……………	二五六
惜春のひと……………	由梨恵子……………	二五七
ぼっちのワルツ……………	ゆり花笑……………	二五八
明かりを求めて……………	陽呼びこじま……………	二五九
満州小夜曲……………	吉井省一……………	二六〇
おしゃべりオバサンの唄……………	芳野和幸……………	二六一
ふるさとの祭り歌……………	渡辺蛍雪……………	二六二
男の夢のファンタジア……………	渡辺久士……………	二六三
すってんでん……………	わたなべ泰彦……………	二六四
猫 男……………	鰐村 兔……………	二六五

編集後記……………たきの えいじ

題 字 星野 哲郎